

症例報告

介護老人保健施設入所者に対し 経口維持の取り組みとして口腔体操を行った1例

介護老人保健施設きたはら、栄養科；管理栄養士

佐藤 有梨

背景：平成27年度介護報酬改定において、施設入所者の「口から食べる楽しみ」を維持する観点から、多職種共同による経口維持の支援を行う事が重要視された。本報告では実際に経口維持の取り組みとして口腔体操を行った1例を紹介する。

症例内容：既往として糖尿病、高血圧症はあるものの在宅時には家族と同じものを食べられていた93歳女性を対象とした。施設入所時は全粥軟菜食をむせずに食べられていたが徐々にむせを生じる様になり、平成27年11月に汁物にトロミ剤使用となる。入所者家族よりムセに関する不安を聞き、多職種による経口維持の介入を試みる事となる。

結論：経口維持の取り組みを始めた事により、入所者の状態が改善に向かった事、それを多職種間で共有することが出来た事、また、計画書の説明で月に1回、入所者家族と顔を合わせる機会ができ、今まで以上に親密な関係を築ける環境となった事が良い点であった。本取り組みを行っていくためには、多職種共同で互いに知識を出し合っていく事が重要であると考えられる。今後、経験を積んでいく上で摂食嚥下の知識を深め、自身の立場からも多職種へ提案していきたい。

キーワード：経口維持、嚥下機能、口腔体操、パタカラ体操、多職種共同介入、ミールラウンド

背 景

平成27年度介護報酬改定に伴い、当施設では平成28年度より経口維持加算の取り組みを行う事となった。当施設では改定水飲みテスト及び厚生労働省が雛型として提示している計画書の22のチェック項目を用いて利用者の摂食嚥下問題を把握している。その結果をもとにミールラウンドを施行、同日にカンファレンスを開き、利用者にあった食事形態、姿勢、介助方法等を話し合い、計画書を立てている。(1)(表1)

本症例では実際に経口維持の取り組みを行った1例を報告する。

症 例 内 容

93歳、糖尿病、高血圧症の既往がある女性を対象と

した。糖尿病薬は内服していない。在宅(91歳当時)では、食事はゆっくりではあるものの家族と同じ食事を自力で食べられる状態であった。平成26年本施設へ入所され、医師より全粥軟菜食、副食一口大の指示が出た。上下共に義歯不良なく、ゆっくりだが全量自力摂取出来ており、嚥下にも問題見られず経過していた。しかし、徐々に食事時間の遅延、食事中のムセが顕著となり、平成27年10月より汁トロミに変更となった。

平成28年3月に医師、看護師、管理栄養士立会いの下、改定水飲みテストにて嚥下機能の評価を行った。結果は、「嚥下あり。むせるか、湿性嗝声あり」に該当したため、嚥下に問題ありとして経口維持の取り組みを始めた。

1回目介入時、経口維持計画書チェックリストの「⑤食べ始められない、食べ始めても頻繁に食事を中断してしまう、食事に集中できない」「⑫固いものを避け、軟らかいものばかり食べる」「⑯食物をなかなか飲み込まず、嚥下に時間がかかる」「⑰頻繁にむせたり、せきこんだりする」の4項目に当てはまった。全粥の離水にむせているとの情報より、全粥にトロミ剤を使用しむせを予防、本人の嚥下機能の維持、向上のために口腔体操の一環であるパタカラ体操の実施する事となる。(2)

2回目介入時、義歯調整の期間、副食きざみに変更した。カンファレンス実施時は調整終了していたため一口大の食形態に戻す事を提案したが、きざみ食変更後、食事にかかる時間やむせの頻度が減ったため現在の食形態が適しているとの意見があった為、副食はきざみのまま維持、嚥下機能維持、向上のためのパタカラ体操は継続となる。

3回目介入時、むせの頻度が少なくなったため「頻繁にむせたり、せきこんだりする」のチェックを外した。食事は全量自力摂取できており、大きな変化は見られなかった。

4回目介入時、家族が1cm程の厚みのきゅうりの浅漬けを差し入れしている場面を発見した。入所者は目を輝かせて、むせずに上手に食べられていた。この事より、咀嚼機能は問題見られないため、食を楽しむ観点より、連日昼のみ副食一口大提供を行う事となる。

5回目介入時、チェックは「⑤食べ始められない、食べ始めても頻繁に食事を中断してしまう、食事に集中できない」のみとなる。しかし、昼の副食一口大提供時、煮物や和え物の汁にむせているとの情報があった。対策として、⑤に関しては、声掛けを行うが、体

重維持できている状態のため無理には食べさせない、むせに関しては、煮物、和え物の汁を別皿に捨てるか、トロミ剤を用いて対応する事が新たに決まった。

6回目介入時、むせ少なく、自力で安全に召し上がられていることから、医師より経口維持の取り組み終了の指示があった。現在、対策として実行している事はフローアにて今後も継続してもらう事となる。

考 察

本症例では、パタカラ体操により嚥下機能の改善が行われた様に感じるが、本来であれば効果が出るのに数か月の実施期間が必要のはずである。入所者が日中は発語が無かった為、少しの期間でも効果が出たのではないかと推測する。しかし、本取り組みを行った事で、入所者家族より「口の体操を行うと教えてもらったあたりから、むせが少なくなりましたね。」と声をかけていただくなど、効果を実感していただく場面もあり、本症例に関しては良い成功例にであったと考える。

経口維持の取り組みを始めた事により、入所者の状態が改善に向かったのはもちろんだが、それを多職種間で共有する事が出来た事、また、計画書の説明で月に1回、入所者家族と顔を合わせる機会ができ、今まで以上に親密な関係を築ける環境となった事が良い点であったと考える。特に本取り組みを行った事で、ミールラウンド以外でも昼食時に利用者の状態を見に行くなど、以前に比べ多職種に食事への関心を持ってもらえるようになったと感じる。当施設には言語聴覚士などが在籍しないため摂食嚥下の専門知識をもつ者がいない。その中で本取り組みを行っていくためには、多職種共同で互いに知識を出し合っていく事が重要であると考えられる。経口維持の取り組みは、向き不向きの対策はあれど正解不正解は決まっていない。今後、経験を積んでいく上で摂食嚥下の知識を深め、自身の立場からも多職種へ提案していきたい。

文 献

1. 栄養マネジメント加算及び経口移行加算等に関する事務処理手順例及び様式例の提示について（平成17年9月7日老老発第0907002厚生労働省老健局老人保健課長通知）（抄）

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Rukenkyoku/0000080897.pdf>（平成28年3月1日）

2. 丹後お口の健康を考える会
「パタカラ体操」

<http://www.nao-2004.com/tankenai/PDF/koureisya/patacara.pdf>（平成28年3月1日）

英 文 抄 録

Case report

An elderly case with an improvement of her oral feeding function by an exercise of swallowing

Nursing home Kitahara, Department of nutrition ; Registered dietician

Yuri Sato

Background : “The pleasure to eat from a mouth” was emphasized by a revised reward for the nursing care in 2015. We experienced a case, whose oral feeding function was improved by an exercise of swallowing with the intervention by a compound professional occupation.

Case report : A 93-year-old elderly female patient with diabetes mellitus and hypertension showed misswallowing after admission, which required a thickening procedure of meals. After the informed consent to her family, we performed the intervention of our compound professional occupation and an exercise of swallowing.

Conclusions : Our swallowing trials by a compound professional occupation improved their swallowing conditions. Monthly communication with their families brought a close relationship. It was important to accumulate and share our experiences among a compound professional occupation about a function of swallowing in the elderly patients.

Key words : nursing home, maintenance of oral feeding, function of swallowing, exercise of swallowing, Pa-Ta-Ka-Ra exercise, intervention by a compound professional occupation, meal round

表1. 経口維持計画

氏名		性別 <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	生年月日 年 月 日 歳	経口摂取の状態 <input type="checkbox"/> 歯又は使用中の義歯がある <input type="checkbox"/> 食事の介助が必要である	算定加算 <input type="checkbox"/> 経口移行加算 <input type="checkbox"/> 経口維持加算(Ⅰ) <input type="checkbox"/> 経口維持加算(Ⅱ)及び(Ⅲ) (協力歯科医療機関名)
摂食・嚥下機能検査の実施* <input type="checkbox"/> 水飲みテスト <input type="checkbox"/> 頸部聴診法 <input type="checkbox"/> 嚥下内視鏡検査 <input type="checkbox"/> 嚥下造影検査 <input type="checkbox"/> 咀嚼能力・機能の検査 <input type="checkbox"/> 認知機能に課題あり(検査不可のため食事の観察にて確認) <input type="checkbox"/> その他()				検査実施日* 年 月 日	検査結果や観察等を通して把握した課題の所在 <input type="checkbox"/> 認知機能 <input type="checkbox"/> 咀嚼・口腔機能 <input type="checkbox"/> 嚥下機能
既往:		事前問題点:			
食事形態: 主食(全粥・粥ミキサー)、副食(きざみ・ミキサー・嚥下困難食)、トロミ(なし・汁・お茶)、その他() ※ 経口移行加算を算定する場合は、*の項目の記入は不要です。					

介護老人保健施設 きたはら

1. 経口による継続的な食事の摂取のための支援の観点*

※ 当欄の項目に関しては、食事の観察及び会議を月1回実施の上、記入してください。

食事の観察を通して気づいた点	
食事の観察の実施日: 年 月 日 参加者: <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 管理栄養士/栄養士 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 看護職員 <input type="checkbox"/> 介護職員 <input type="checkbox"/> 介護支援専門員	
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	① 上半身が左右や前後に傾く傾向があり、座位の保持が困難である
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	② 頸部が後屈しがちである
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	③ 食事を楽しみにしていない
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	④ 食事をしながら、寝てしまう
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑤ 食べ始められない、食べ始めても頻りに食事を中断してしまう、食事に集中できない
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑥ 食事又はその介助を拒否する
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑦ 食事に時間がかかり、疲労する
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑧ 次から次へと食べ物を口に運ぶ
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑨ 口腔内が乾燥している
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑩ 口腔内の衛生状態が悪い
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑪ 嚥むことが困難である(歯・義歯の状態又は咀嚼能力等に問題がある)
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑫ 固いものを選び、軟らかいものばかり食べる
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑬ 上下の奥歯や義歯が噛み合っていない
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑭ 口から食物や唾液がこぼれる
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑮ 口腔内に食物残渣が目立つ
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑯ 食物をなかなか飲み込まず、嚥下に時間がかかる
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑰ 食事中や食後に濁った声になる
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑱ 一口あたり何度も嚥下する
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑲ 頻りにむせたり、せきこんだりする
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑳ 食事の後半は疲れてしまい、特に良くむせたり、呼吸音が濁ったりする
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	㉑ 観察時から直近1ヶ月程度以内で、食後又は食事中に嘔吐したことがある
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	㉒ 食事の摂取量に問題がある(拒食、過食、偏食など)
多職種会議における議論の概要 会議実施日: 年 月 日 会議参加者: <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 管理栄養士/栄養士 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 看護職員 <input type="checkbox"/> 介護職員 <input type="checkbox"/> 介護支援専門員 <input type="checkbox"/> 相談員	
経口による継続的な食事の摂取のための支援の観点	① 食事の形態・とろみ、補助食の活用 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 変更 ② 食事の周囲環境 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 変更 ③ 食事の介助の方法 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 変更 ④ 口腔のケアの方法 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 変更 ⑤ 医療又は歯科医療受療の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
コメント:	

2. 経口による食事の摂取のための計画

※ 栄養ケア計画や施設サービス計画において記入している項目は、下記の該当項目の記入は不要です。また、初回作成時及び前月から変更がある場合に記載して下さい。

初回作成日 (作成者)	年 月 日 ()		
作成(変更)日 (作成者)	年 月 日 ()		
入所(院)者又は家族の意向	同意者のサイン (※初回作成時及び大幅な変更時)	説明と同意を得た日 (※初回作成時及び大幅な変更時)	年 月 日
解決すべき課題や目標、目標期間			
経口による食事の摂取のための対応	経口維持加算(Ⅰ)*		

文献1を元に、食事形態の項目を追加し、はい、いいえのチェック欄を左側に持ってくるなど、カンファレンス内で使いやすい様に変更した。

(2016/12/23受付)